令和6年度 第2回 平塚市博物館協議会会議録

開催日時 令和6年11月14日(木) 10時~11時40分

開催場所 平塚市博物館 科学教室

会議出席者(敬称略)

会長 小倉 俊宏

副会長 (藤吉 敬子 欠席)

委員 金子 淳、広谷 浩子、山田 美保、大田 幹司

事務局 石川社会教育部長、浜野博物館長、川端館長代理(学芸担当長)、坂田館長代理(管理担当長)

傍聴者 0名

会議の概要

1 開 会 石川社会教育部長挨拶

2 議 事

(1) 報告事項等について

- ・ 令和6年度夏期特別展について
- ・ 令和6年度行事実施状況について
- ・ 情報発信(ホームページとYouTube・SNS)について

(3) その他

- ・ 事務連絡等

3 閉 会

議事及び質疑

議題(1) 報告事項等について

令和6年度夏期特別展の開催報告について事務局から説明資料により説明。

委員 展示解説ボランティアをしている。解説した際、資料を集め、標本を作り、保管することの大変さに大いに驚き、感心する人やワークシートを取って楽しんでいる人も多かった。また、じっくり観覧していた大人の方から絶滅した植物の理由を尋ねられたが、展示の中にもう少し詳しい解説があっても良いと感じた。

委員 7月24日(水)に開催した、こども展示解説の参加者内訳について質問したい。13人中、大人3人、子ども10人だが、大人3人が子ども10人の面倒を見たのか。子どもだけで来館する場合もあるのか。

標本を印象付けるために生態写真など他の展示要素を減らして、担当者の意図が明確に伝わる展示手法だった。資料(モノ)を見てもらいたいのか、ストーリーの中に資料を当てはめて見せるのか、今後、他分野の特別展でも展示手法を明確に示すとよいと思う。

事務局 大人と子どもがともに参加することも多いが、大人が講座参加者の子ども以外に小さい弟、妹を伴って来館する場合は、小さいお子さんのそばから離れられないので、子どもだけで参加することがよくある。また、博物館の近所に住んでいる子どもは一人でも来館しており、中学2年生くらいだと思われる生徒は1回目だけでなく2回目も一人で参加していた。

委員 図録の制作部数はいつも同じなのか？

売れなかった分は配布などをするのか？

展示を観覧した上にさらに図録を購入する人は展示内容+ を求めて購入していると思うが、図録は裏話など展示以外の内容も盛り込まれた内容にするのか、それとも、展示内容に沿い、より記憶が残るような内容なのか。特別展ごとに異なってくるのか？

事務局 外部機関などの協力を得て制作する場合、出来上がると関係部署などに送付することから配布部数が多くなる。また、内容により販売部数を想定するため、特別展ごとに制作部数は前後する。今回の販売部数は500部を想定した。期間中の販売部数が48部だが、会期終了後の購入希望者もいるので引き続き販売していく。

展示終了後、小学校、幼稚園などから授業等で活用したいと申し出があった場合は提供することもある。

植物標本は常時公開される資料ではないので、手元において見てもらうには活用しやすい図録になったと思うが、今回の図録は+ の要素が少ないので展示を観覧した人は展示内容のままと感じる人もいたと思う。

委員 標本形式で展示されていることで、今までは道端の草のことを気にも留めなかったが、自然に植物や草に目がいくようになり、平塚にたくさんの草花が自生していることに気づかされた。また、今の子どもたちは押し花をする経験がないので、押し花を知る貴重な機会になった。さらにワークシートによりワクワクできるような機会を与えてもらったことにも感謝したい。このように博物館は楽しく、ワクワクするチャレンジができる場所だということを、事前にアピールしてもらえともっと博物館に興味を持つお子さんが増えると思う。どのようにアナウンスすると子どもたちを惹きつけることができるのか。

委員 小学校、中学校に向けてどのようにアナウンスしたのか。

事務局 市内の小中学校には開催案内を送った。夏期特別展については、学校が夏期休暇に入るので各戸配布したかったが、3万枚になるため予算面から断念した。

令和6年度行事实施状況について事務局から説明資料により説明。

委員 野外行事の場合、安全対策が必要だが職員の同行人数は？

事務局 担当学芸員の他、催行人数によりワーキンググループの会員さんが運営側として同行することで安全確保に努めている。

委員 地質の一般募集行事にワーキンググループの会員として同行することがある。午前、午後それぞれ20人とまとまった人数が参加している。高齢の方も多く、長い行列になると危ないと思

うこともある。あちこちを回り、また足元が悪い場所に行くことも多いので、交通事故防止だけでなく、足元への対策など一層の安全対策を図ってほしい。

事務局 一般募集行事の特に野外行事については、目配りができる範囲で安全性を担保するため、人数を制限せざるを得ないことがよくある。ワーキンググループの活動については、人数により2グループに分けたり、同じルートでも別の日に設定するなどしている。

委員 ワーキンググループの活動については、経験がありしっかり準備しているので心配は少ないが、一般募集行事について十分にケアしてほしい。

委員 野外活動に際し、保険に加入しているか？

事務局 現在は加入していない。

委員 (3)一般募集行事の表の中で、平塚学講座の人数44人は延人数か実人数か？

事務局 延人数になるため、開催が複数ある場合は同じ人でも複数カウントしている。

委員 (4)外部依頼行事は、さまざまな分野でたくさんの人の協力を得ながら、いろいろな場所に向いて開催していることが、わかりやすく整理されている。

委員 (3)一般募集行事の「体験学習 恐竜ペーパークラフトを作ろう」は参加者が多いが、子どもたちの参加が多かったのか？

事務局 親子での参加が多かった。組み立ての難易度を幼児、小学校低学年、高学年と3つ用意した。高学年向けは難易度が高く、親と一緒に取組んでも時間がかかり、親がかりの子も多かった。

委員 周知方法については、博物館からのたより、SNS、ホームページが主なものだと思う。子ども向け事業もワクワクするよう感じる素晴らしい内容が多いが、たよりを小学校の各教室に掲示しても子どもたちには伝わりにくいので、直接子どもにアプローチできる方法を考えてくれるとありがたい。例えば子どもたちが楽しそうだなと感じるようにチラシを作成して学校に配布するなどの考えはないか？

事務局 毎月、学校に「あなたと博物館」をお送りしているので、先生方への案内はできていると思う。子どもたちにはチラシ案内していたこともあったが、校長会で配布物が多いので配慮してほしいと言われた経緯から控えている。

委員 骨格標本などは、骨格や筋肉が4年生の理科の学習内容に入ったので、子どもたちが参加できるといろいろなことを様々な方面から学ぶことができると思った。

事務局 骨格標本の講座を行うにあたり、鳥の手羽先を使ってモデルを作るが、担当学芸員が家でせつせと食べて骨(題材)を用意しているので提供できる数に限りが出る。

事務局 学校から一人1台タブレットが渡されているが、その中に市から情報を発信できるツールはあるのか？

委員 今年度からタブレットで募集要項をお知らせしたり、QRコードを読み込んで内容を把握できるようになったので、博物館事業も教育総務課に確認してほしい。校長会にも改めて確認したい。

- 委員 夏休みの自由研究について、博物館で相談などに応じているのか？
- 事務局 開館以来約 30 年間は 7 月下旬と 8 月中旬に 2 回、学芸員全員がスタンバイをしてあらゆる相談に応じる「自由研究相談会」を実施していた。7 月は課題、テーマ、調べ方について、8 月は実際に取組んだものから、まとめ方などをアドバイスしていた。目を引くものもかなりあった。しかし学校が自由研究を宿題に出さなくなったことも要因だと思うが、だんだんと参加人数が減ってしまった結果、20 年前から実施しなくなった。現在、個別に相談があれば対応しているが、子どもたちが気軽に相談できる相談会のような形は取っていない。
- 委員 現在、県立生命の星・地球博物館では、自由相談会という形ではないが、発表の機会を持てるよう、出展会を開催している。学校に呼び掛けて出展をお願いする。模造紙で発表する形式だが、担当学芸員が審査をしたり、同席するなど関わりを持つことで、出展者のモチベーションアップにつながり、リピーターもかなりいる。
- 事務局 模造紙にまとめるのは学校単位で制作するのか？
- 委員 学校ごとに推進している。小田原市、箱根町などの毎年参加してくれる学校は発表方法が確立されている。それ以外でも相談があった学校にも参加を呼び掛けている。だいたい 30~40 の出展数があり、大きな会場で開催している。人前で発表はしていないが、審査したものを 1~2 週間展示しているので、親など家族が見に来る機会が十分確保できる。
- 委員 自由研究の相談は展示解説ボランティアにも件数は多くないが時々ある。小学生は親子連れ、中学生は友達同士。一緒に館内を回り本人が興味を示すこと(分野)について説明をしている。
- 委員 子どもたちの行事参加への訴求については、20~30 年前はポスターとチラシなどの紙の媒体を活用すれば何とかなっていた。今は情報環境が変化して、SNS の普及により、若者であればインターネットや X などの方が訴求率は高いが、高齢者にはそうとは言えず、回覧版などで周知している。年齢層により情報が行き届くチャンネルが違うため、情報環境の分断化が進み過渡期を迎えている。近い将来電子メディアが主力になるかもしれないが、今はそれぞれの年齢層に対してどういうメディア、ツールを使うのか考えていかなければならない。
- 子どもへの情報提供については、今までは学校向けが主であったが、これからは学校以外の地域、家庭などへの手段を考えていく必要がある。私は雑木林のボランティアをやっているが、イベント募集のチラシをスーパーに掲示してもらったら、それを見た子どもたちが多く参加した。学校というチャンネルではなく、生活行動圏にあるものを目にして反応したもので、すごく印象に残っている。これからは既存のものではないチャンネルを使い、どのように子どもたちに情報を届けるのか、具体的にはアイデアはないが考えていくことが肝要だと思う。なにか改革ができれば広がりが出て、ダイレクトに子どもたちに伝わりやすい。
- 委員 地域活動に携わっていると地域行事には一人でも多くの子どもたちに参加してほしいと強く思う。住んでいる地域でも、お知らせの第一の伝達手段は回覧板になっているが、見る人はほとんどいないと聞いている。子どもたちが親と一緒に行くスーパーやコンビニにチラシを掲示

する方法は有効な手段だと思うが、なかなか難しいところもあり、子どもたちにうまく伝わる方法が見当たらずに苦慮している。

委員 ワーキンググループの展示解説ボランティアは博物館機能の一翼を担っていると自負している。展示解説ボランティアの現状と博物館へのお願いをお伝えしたい。会員は16人、うち80歳以上が7人、90歳以上も1人。体のあちこちがボロボロなので、このメンバーで活動を続けることは難しい。世代交代の時期だが60代が3人だけでなかなか厳しい状況の中、図書館やひらしん文化芸術ホールに会員募集のチラシを置いているが、期待しているような反応がない。先日地質のワーキンググループ活動の時に配ったように、博物館の各ワーキンググループで集まる際、チラシを配るなど募集を案内してほしい。会員さんにはそれぞれ専門・得意分野があると思うので、得意分野からワーキンググループの活動を理解してもらえれば、入会を検討する人もいるのではないか。また、毎年こどもフェスタでクイズに答えると景品を出している。100人分の景品を用意するが、手作りなので相当な手間と時間がかかる。恐竜のペーパークラフトの在庫があればいただけないか。

事務局 展ボラの人には博物館機能を担っていただきとても感謝している。少しでも会員が増えるようチラシ配布等を行い協力していきたい。ペーパークラフトは出来がいいので、販売などを検討しているところ。

委員 以前、お雛様を展示した際、お雛様の絵葉書が欲しいといわれたことがあった。現在、図録等の書籍はあるが、美術館にある絵葉書などの小物があれば入手したいと思う人もいるはず。ペーパークラフトとともに検討してほしい。

事務局 現在も博物館の収蔵品の絵葉書は販売しているが、制作から時間が経っているので、今の時代に合ったものにしていく必要とともに、ミュージアムグッズのような小物なども博物館開館50周年の際には記念に作れたらと考えている。

委員 先ほどの展示解説ボランティアに関連して、ボランティアの高齢化問題はどこでも起こっているが、問題を考えるときに重要なことが2つある。まず段階性の設定で、最初は初級的なことから始まり、だんだんと高度な内容になっていくものだが、これだけだとそのまま年齢を重ねて行き詰る。そこで循環性の設定が必要になる。経験豊富な会員が新任者の指導をすることで新人の知識を深めるとともに、裾野を広げることにもつながる。また、別の人が新しい人に教えることで、自分の学びを深め、組織が活性化していく。活動が長くなった場合、裾野の拡大に重点を置くべきで、広くチラシを配るだけでは応じる人はいない。博物館だけではなく、公民館や図書館などで直接声をかけるなど、具体的にどこに行けばよいかかわからないが、ピンポイントで決め打ちしたほうが現実的な気がする。

委員 先日、一般の人を対象にした平塚学の講座でチラシを配ったら反応があった。入会に際しハードルになるのが教育体制で、その人は説明がうまくできるかなどの不安を口にしたが、展ボラの新人に段階に応じた研修など博物館側でしっかりと教育していることを話した。その後連絡

はないが。講座参加者への声掛けも効果的だと実感した。

事務局 段階性と循環性について、ワーキンググループではシステムとして組み込まれているわけではないが、長く活動している会はベテラン会員が新入会員の指導にあたる流れはある程度できている。古文書講読会では江戸時代のくずし字など読めない会員に対して、ベテラン会員が一から手ほどきをしていくなど、基礎的な知識などをレクチャーしながら実践の場で覚えてもらっている。会員を増やして充実させるためには、いろいろなところに呼び掛けてチラシを置き、たくさんの方が入会することも大事だが、定着してもらうことも大事。そのためには学芸員だけでは目が行き届かないところを、循環的な流れの中で会員に関わってもらうことを意識している。

情報発信（ホームページと YouTube・SNS）について事務局から説明資料により説明。

委員 展ボラの立場で最近、地質・地学への質問が多いと感じる。YouTube の視聴回数ランキングにも表れているが、不動産関係者や平塚への転入予定者から災害の危険が少ない地域など生活に密接に関わるような質問を受ける。自然災害との関係で地質・地学に関心を持つ人が増えている。2階に平塚市各エリアの液状化のリスクを数字で表示するコーナーがあるが、N 値（地盤の強度や締まり具合）を確認するためにわざわざ来館し、自分の居住エリアの安全度を確認してほっとして帰る人も多い。

委員 YouTube だが、番組により配信時間（長さ）が異なるが、長さによる視聴回数の多寡など傾向のようなものはあるのか？

事務局 長さによる視聴回数のはっきりとした傾向は掴めていない。しかしその番組を何分まで見ていたかを確認できる機能があり、配信時間の半分以上まで見続ける人の割合が全視聴者の 50%を超えるとよい番組とされている。ランキング上位はこれに該当するものが多いが、長い番組は内容がいくら良くても飽きられる傾向があるので、短い番組の方が飽きられずに見ていただける。

委員 YouTube のランキングから、歴史ものは多くないと感じた。

事務局 歴史ものについては、「5分でわかる平塚学入門」は全 83 本で完結している。現在は館蔵資料を紹介する「博物館モノがたり」を作成している。ランキングに入っているのは、8 位「上ノ入遺跡の敷石住居址」だけだが、引き続き紹介していく予定。

議題（2）その他

事務連絡等

委員から「博物館の正面入口付近に、特別展などの案内を目につくよう常時設置してみてもどうか」という提案があった。

委員 ・現在、玄関に看板を掲げているが、もっと人の関心を集める、パッと目に留まるような案内が欲しい

・大きな案内（看板）を玄関上部の壁面に設置することで人を呼び込みことができるのでは

・目立たない建物を派手なバナー広告により、興味を引くように工夫している博物館などもあるので参考にしてほしい

・エントランスの照明もスポットライトなどで明るくすることも必要

事務局 特別展の看板については、以前からもっと大きなものにできないかを考えている。建物が古いので設備の改修も同時に行わなければいけない可能性があり、壁面に設置することは難しい。シートを張る場合でもそのための設備がないと固定できない。壁面シートを貼り付けるタイプがあり足場を組めば設置できるが、この建物では安定的に足場を組むことは難しい状況。個人的には、玄関の庇から横長に看板を吊るせないかを考えていたが、こちらも固定方法が難しい上に、重量に耐えられるか、風対策などの課題もある。

委員 「特別展開催中」という青い横断幕を玄関庇の真上の位置で掲示できないか？

事務局 横断幕は庇の柱の上の突きだしに固定しているが、玄関庇の真上に掲示するちょうどいい位置に突き出しがないため難しい。

委員 個人的にはひらひらの旗は幟と変わらず、しょぼい感じがする。

委員 守衛室の上には掲示できないか？

事務局 守衛室は館外の様子を確認できるようガラス張りになっていて、オープンになっていないと警備上問題があるため、こちらも難しい。

委員 どこかに設置してしまい、機会ごとに入替えなどができればよいと思うが。

委員 協議会の際は駐車場を利用している。北側駐車場からの来館者も一定数いると思う。現状では正面が東側なのか北側なのかは判断が難しいところだと思うが、東側と北側、どちらの方向から来館する人が多いのか？統計資料がないのであれば、肌感覚で多いと感じる方向が正面ではないか。

事務局 駐車場側への看板設置を考えたこともあったが、緑化率の関係で植栽を減らすことができないことや、クスノキが大きくなってしまったことなどにより、話を進めることができない。

委員 歩いてくる人を想定したデザインなのか？

事務局 博物館は昭和 50 年完成。当時は車を利用している人が少なかったため、当時は北側の駐車場ではなく、南側（東側）から来館する人を想定していたが、現在はどちらがメインなのか、難しいところ。

委員 駐車場から歩くと建物への案内等が無くて不安に思うことがあるので、守衛さんがいるあたりに看板などが設置してあると安心する。特別展を開催していない期間に必要なと思う。

事務局 「平塚市博物館」と書かれているパネルを金色に塗るなど他にもいろいろとアイデアはあるが具体化していない。

委員 いずれにしる、改修計画もあるのでそこも含めて考えていくと思う。

次回の協議会は令和 7 年 3 月 21 日（金）に開催することにした。

閉会后、館長が秋期特別展展示解説を行った。